

「豆まつり2021 in 下関」の開催について

(公財)日本豆類協会

令和3年10月16日(土)に、山口県下関駅前のシーモール下関(2階サンパティオ広場)において、「豆まつり2021 in 下関」(主催:西部穀物商協同組合、後援:日本豆類協会、協賛:全穀商連、ホクレン)が、①穀物を使った健康で体に良い食生活の提案・推進、②新豆配布により豆料理をするきっかけの提供(消費拡大)、③環境保全への寄与の3つをコンセプトとして開催されました。



司会の様子

全国穀物商協同連合会では、従来から豆類のもつ栄養や健康効果とおいしさを消費者にアピールすると同時に、豆類を手にとってもらう機会を提供することを目的として、日本各地で「豆まつり」を開催しているところですが、今年度は新型コロナウイルスの影響が依然として懸念されることから、下関で開催された本イベントが全国で唯一の「豆まつり」となりました。

当日は、山口県では知らない人はいないと言われるぐらいの有名人である、女性フリーアナウンサーの「佐藤けい」さんと吉本興業所属芸人の「どさけん」さんのお二人が、軽妙なやりとりでその場を盛り上げながら、お客さんと和やかに交流しつつイベントを進行しました。

以下に、当日の様子を詳しくお伝えします。

● 1.土産物配布 10:00～13:30 ●

①2,000袋の豆エイトのイラスト入り袋に、下記のアイテムを会場で主催者の理事達が袋詰めしつつ、参加者に順次配布しました。

- ・豆を使った湖月堂の和菓子(「栗饅頭」、「ぎおん太鼓」)
- ・豆類協会のパンフレット(「かんたん!乾燥豆ゆで方入門」、「豆を食べる健康生活」、「豆元気、きれい」、「豆エイトシール」)

- エコバッグ、ウエットティッシュ、ボールペン等

②配布当初は常時30～40名の行列が出来ましたが、正午前になると行列もまばらになりましたので、主催者側からの積極的な配布を実施しました。

③全体イベント終了14:00の30分前には全ての配布が終了しました。

④なお、協作作成のパンフレットは、概ね好評でした。



土産物の梱包作業

● 2. 豆の数当てクイズ 10:30～11:00 ●

①開会早々に、司会のお二人が豆の数当てクイズに参加する子供を募り、参加を希望した子供達にメインステージへと上がってもらいました。

②メインステージにはテーブルがあり、その上には乾燥豆を入れた透明プラスチックケースが置かれていました。

③子供達は、ケースの中の豆を間近に眺めながらその数を推計し、その数を規定の用紙に書き入れたものを回収ボックスに入れていました。

④最終的には実際の数に近い数を予想した参加者数名が賞品授与対象者となり、乾燥豆が賞品として授与されました。



豆の数を考える子供達

● 3. 豆つかみゲーム 11:30～12:00 ●

①豆の数当てクイズが終了後しばらくしてから、今度は豆つかみゲームに参加する子供を募りました。

②これは、トレイに入れてある豆を箸でつかんで、制限時間内に他の皿に移し替えるゲームで、そのスピードを小さな子供の参加者と吉本芸人の「どさけ



ん」さんが競うものです。

- ③但し、「どさけん」さんは競技中に豆を遠くにこぼすなどの失敗をして、必ず子供が勝つこととなっています。

●4.ビンゴ大会 13:15～13:55

- ①今回のイベントの最後を飾るビンゴ大会は、大人も参加できる上に、賞品も優勝が5千円ということもあり、ビンゴカードが配



られる15分前ぐらいからは早くも行列ができていました。

- ②大人も子供も真剣にビンゴゲーム取組んでいたことに加えて、司会の2人の軽妙なやりとりもあり、ゲーム中は終始大変な盛り上がりとなりました。
- ③一方、ビンゴ大会の横では、依然としてお土産の配布が続けられ、ビンゴ大会の途中で、全ての土産物の配布が終了することとなりました。
- ④ビンゴ大会が終わりを迎えると同時に、イベント自体の終了も宣言され、お客さん一体となった楽しい1日が終わりを迎えました。

